

これからの滋賀の県立高校の在り方に関する 意見聴取について

1. 意見聴取の実施状況について	P 2
2. 意見聴取の結果概要	P 3
(1) 大学生等	P 3
(2) 市町首長	P 4
(3) 市町教育長	P 4
(4) 中学校長	P 5
(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭	P 6
(6) 高校教諭	P10

1. 意見聴取の実施状況について

(1) 大学生等

- ・対 象 滋賀の教師塾入塾者
- ・実 施 令和2年11月28日(土)
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出
- ・回 答 県内県立高出身107人、県内私立高出身12人、県外高出身54人 不明3人 計176人

(2) 市町首長

- ・対 象 滋賀県町村会定期総会及び滋賀県市長会議の出席者
- ・実 施 滋賀県町村会定期総会 令和2年10月5日(月)
滋賀県市長会議 令和2年11月2日(月)
- ・内 容 上記会議において、『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、質疑応答という形で意見聴取

(3) 市町教育長

- ・対 象 県内19市町の教育長
- ・実 施 令和2年10月
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(4) 中学校長

- ・対 象 県内市町立中学校長(47校(市町ごとに1~7校抽出))
- ・実 施 令和2年10月
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭

- ・対 象 全県立学校(高校46校、中学3校、特別支援学校15校)の校長と副校長・教頭
- ・実 施 令和2年10月
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出

(6) 高校教諭

- ・対 象 中堅教諭等資質向上研修(高等学校)対象者
- ・実 施 令和2年11月6日(金)
- ・内 容 『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』の骨子イメージを示し、意見を記載、提出
- ・回 答 63人

2. 滋賀県立高等学校在り方検討にかかる意見聴取の結果概要

(1) 大学生等

<確かな学力の育成>

- ・学校の授業でグループワークやディスカッションを取り入れるべきだと思います。生徒のやる気を出させ、楽しく受けてもらうためには必要だと感じました。
- ・生徒をやる気にさせるような探究的な授業や将来を考えられるような授業を行ったうえで、基本的な能力が身につくような適切な課題、生徒一人ひとりの学力フォローが必要だと思います。
- ・ディベートなどの自分の意見を述べる機会や相手の考えを受け入れる機会など、お互いが受け入れ合う機会を設けることも大切であるとする。
- ・グローバル化に向けて外国との関わりや関心を向上させるような取り組みをすることや、スマートフォン等の電子機器が普及している為、そういったものの便利さと使用法、危険性と実際に起こりうる事件について学ぶことができる機会を設ける必要がある。
- ・もっと自分から探究的に学べる空間が与えられていれば、もっと楽しく学べたのではないかと感じます。
- ・生徒が自ら動いて感じられるように、主体的になれる経験をする場を多く取るべきだと思う。
- ・大学受験以外の家庭科や書道といった教養や将来のための勉強のほうが楽しかった。教科の勉強もSSHの発展的なものの方が楽しかった。
- ・オンデマンド式にすることで、授業時間内では聞き逃していた先生の言葉を見つけ、より深く学習することができるのではないか。

<キャリア教育の充実>

- ・高校1年生の時のキャリア選択の活動が良かった。学年全員を対象に、様々な分野の職場の方のお話を聞く機会があり、そこで大手企業で研究をされている方や銀行で働く方のお話を聞いたことで、将来なりたい職業の参考にすることができた。
- ・高校ではアルバイトが禁止だったので、社会のことを学べる機会が少ないように感じた。
- ・キャリア教育がもっとあれば良かったと思う。大学進学の話はあったが、将来の仕事や自分の生き方を考える機会が欲しかった。
- ・社会に出て働いているOBや、大学で学んでいる先輩たち、いろんな分野で活躍されている人と交流できる機会を設け、生徒自身が自分の「ありたい姿」がイメージできるようにするとよいのでは。
- ・フィールドワークは自分の将来について見据えて考える良い機会だったので、滋賀県の高등학교でもっと取り入れていくべきだと思う。

<学校の特色化>

- ・総合学科の高校で、自分の学びたいと思った授業を選択することができたのが良かった。
- ・母校は単位制の高校で、自分の興味ある分野を選び、学ぶことができたのは良かった。
- ・特進クラスがあり、同じように進学したいという思いが強いクラスの仲間と過ごせ良かった。
- ・生徒のレベルに合わせ、細かなクラス分けをしていくなどのより高いレベルを目指しながらも、一人ひとりの能力に合った授業を取り組んでいくべきだと思う。

<学校行事等>

- ・文化祭などの学校行事は生きる力を育成するためには非常に有効な活動だと考えます。授業はどうしても受動的になってしまうので、能動的に活動できる取組を増やしていくべき。
- ・学校行事のみならず、様々な場面でクラスメイトや教職員と団結できる取組をしていくべきだと思います。

<その他>

- ・魅力を伝える“広報”に力を入れたら良いと思う。また、新しい魅力を作ることよりも、今ある魅力は何かをよく理解し、その魅力を伸ばせるプログラムなどは何か見極めるべきだと思う。
- ・私の県では、住んでいる地域によって受けられる高校が決まっていたので、滋賀県ではその方針がなくなったと聞き、良い方向に進んでいると感じた。
- ・全県一区という制度があったことによって、自分自身が行きたい高校を選択でき、将来について考える機会が与えられたと思います。
- ・私の高校は4クラスだったので、友達同士の繋がりが強かったところが良かったと思う。

(2) 市町首長

<滋賀県町村会>

- ・地域と高校が連携する視点を入れてほしい。
- ・地域において1つの高校の存続は大きい。地元で個々のヒアリングを入れていただきたい。
- ・地元で県立高校のあるところにとって重大であり、それぞれの考えを尊重していただきたい。

<滋賀県市長会>

- ・オンリーワンの学校づくりは必要である。
- ・高校在学中の社会での取組を単位とする仕組みを構築できないか。キャリア教育にもなり、地元への就職にもつながる。
- ・高校の在り方については地域、各市町との協議を丁寧に行い、未来につなげるためにそれぞれの地域の特性に合わせてほしい。
- ・在り方検討が最終的に高校再編にならないように要望する。令和4年度からの地域別協議会で地域の声をしっかり聞いてほしい。
- ・教員の質が大切であり、基本方針に盛り込んでほしい。社会の第一線で活躍している人を活用してほしい。
- ・社会との連携の具体化が求められている。

(3) 市町教育長

<確かな学力の育成>

- ・一斉指導中心からの脱却を図り、生徒の実態や興味関心に配慮して、ICTの活用等、もっと多様な学習形態で子どもたちの学びを深める部分が必要であると考えます。

<キャリア教育の充実>

- ・2022年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられることに向けて、高等学校においてもその意識付けを行う教育も必要であるのではないかと。
- ・地域の企業や団体との連携・体験活動をする中で、学校外の人による高校生の育成を図る。
- ・専門学校や大学への高校卒業後の進学率が高まる中、高校での専門的な学びを生かした進学、さらには将来の仕事につながるような学びの場が必要である。
- ・専門学科はもちろん、普通学科も含め、高校在学中から社会で活動することに取り組み、それで単位を取得できる仕組みを構築できないか。
- ・教科(専門学科)指導のみならず、人との関わりを大事にした教育活動をとおして、自分の考えを広げたり、生き方を考えたりできるような場面をもっと多く仕組む必要があるように思う。
- ・県内のどの地域でも様々な学びが提供されるとともに、キャリア形成を保障するような学校づくりをすることも大事であり、自分を高めるとともに、地域の活性化に貢献する生徒の育成にも重点を置く。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・特別支援教育の対象となる生徒や外国にルーツを持つ生徒に対して、きめ細かな配慮がなされることを望む。

<生徒数減少への対応>

- ・県立高校の人気は南高北低の傾向があるので、特に人口減少地域において魅力と活力ある高校づくりが必要である。
- ・人口減少地域の現状も考え、公立高校の魅力化を図ることにより、他府県からの生徒も来なくなる特色のある高校の創設を願う。
- ・現在の全県一区を立ち止まって考える必要があるのではないかと。また、現在の特色・一般の2段階の選抜は、一般入試に一本化して良いのではないかと。このままの状況を放置しては、再び高校の統廃合の問題が噴出してきて目が届いている。例え高校であっても、地域とともに歩む学校としての存在は大きいものであり、この問題は地域の活気にも大きく関わっている問題だと考える。
- ・今回の議論が、「最終的に高校再編の話題がメインになる」につながることは避けていただきたい。

<普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)>

- ・県立高校、特に普通科の魅力や特色が人々に理解されるにはどのような方策があるのか検討されたい。
- ・各校が思い切った特色を打ち出す、「オンリーワンの学校づくり」が必要であると考えます。
- ・高等学校によっては、単一の役割だけでなく複数の役割も期待される。地域の学校として、域内の中学生の多様な学習ニーズを受け止め、多くの役割を担い、多様で、かつ、質の高い学びを提供してほしい。
- ・生徒の普通科志向に加え、高校の偏差値による序列化も関係して、不本意に入学したことにより、入学後の早い段階から不適応感を抱える生徒が一部いる状況も見受けられる。普通科、専門学科ともに、各高校がどのような生徒を求めているのかや、高校3年間でどのような生徒に育てるかなどを明確に中学生やその保護者に示すことにより、生徒本人がその高校で学ぶ目的や希望をもてるような仕組みを強化する必要がある。

- ・県内の人口動態や経済・産業構造、文化的・地理的要因等の特色を捉え、各教科の在り方の見直しや普通科・専門学科及び総合学科が、各生徒が学びたいことを学ぶことができる環境へと整備し、特色・魅力ある学科としてバランスよく配置されることが必要。
- ・文部科学省が進められている「普通科再編」についても、骨子イメージに含めるべきである。
- ・普通科高校の志望動機は、学校の特色よりも学力や成績、点数等で判断することが多い。各校が独自の魅力や特色を打ち出し、より積極的に発信してほしい。

<ICT活用>

- ・「ICT」「オンライン授業」「遠隔授業」等の先端技術に関わることが多く記載されている点は評価できる。今後積極的に推進してほしい。

<推進体制/教員のフォロー>

- ・学級標準人数の低減や通級指導など、「漏れ」のない学校教育を進めるために、生徒数は減れども、教員数は減らすべきではない。

<県立高校の役割/私学との関係>

- ・滋賀県は大都市圏に比べ、進学校が公立高校に多い傾向にあるので、このよき伝統を守り続けてほしい。

<入試制度について>

- ・特色選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜については、出願する生徒の感覚と、募集する学校側の感覚にずれが生じているように感じる部分がある。各種推薦選抜に関しては、その必要性を検討するとともに、公平性が保たれるように実施していただきたい。

(4) 中学校長

<確かな学力の育成>

- ・これから生きる生徒達は「与えられる」のではなく、「自発的に新たなものを生み出していかなければならない」そういった子どもたちを育成するためにも、STEAM教育をはじめとした、様々な取り組みが必要となってくる。

<キャリア教育の充実>

- ・大学や産業界と連携した専門的な学びや地域社会と結びつきの中で得られる貴重な体験の充実に期待します。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・中学校には自閉情緒学級があるのに、高等学校には通常学級しかないので、コミュニケーション能力等に特性のある生徒が、進学後に人間関係に悩む例が多いように思う。県立高等学校に生徒の多様性に対応して支援できる人員配置や学級の設置等ができるとうれしいと考えている。
- ・現在の高校進学率を考えれば、「インクルーシブ教育」については、今後ますますその取組と小・中学校との連携がもためられるように思います。
- ・多様な生徒の受け入れが可能な仕組みと体制づくりが必要であるとする。特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応がさらに求められていると思う。

<生徒数減少への対応>

- ・国際バカロレアなど学校としての特徴を前面に出し、特色を進めることで、南部の生徒が北進するなどの動きも出るのではないかなと思う。中学校にも課題はあると思いますが、高等学校進学時に高校卒業後や将来の仕事に十分に目を向けきれない面もある。
- ・高校は地域にとって大切な存在である。地域の人材を育成し、将来的に地域に戻って地域に貢献する人材の育成が高校の大きな役割であるとする。しかし、全県一区制により、一部の学校に優秀な生徒が集中し、地域のバランスが崩れているように思われる。本来なら、各校が特色を打ち出すことでカバーするべきだが、特色ある学校作りにも限界があるのではないかな。
- ・現状の高校数のままでは限界があり、今後を考えるとこれまでの歴史や伝統にとらわれず、積極的に学校統合や中高一貫校の設置などに取り組んでいくべきである。
- ・今後、現有数の高校を確保し続ける方向で考えてほしい。生徒数の減少の対応は、1クラスの生徒数を30人に減らすことを考えてはどうかと思う。

<普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)>

- ・大学や産業界との連携が推進されることは大きく期待するところです。それに加えて県立高校間での連携も図れる形が構築できると良いのではないのでしょうか。〇〇高校の集中講義に参加(ZOOM等でも)して単位認定ができるといった仕組みなども構築できないのでしょうか。
- ・〇〇高校は「文武両道でがんばっている」、〇〇高校は「とても面倒見がよく、学び直しもできる」などのように

学校の魅力や特徴をより発揮していただくことが大切であると感じています。

- ・各高校の魅力・特徴は、特に「普通科」である場合伝わりにくいのか、なぜか「横並び」的なものとして映ってしまっているように思います。滋賀県は比較的、広域的な通学が可能な県であると思います。それだけ、生徒にとっても選択の幅は広いわけで、それに応えうる情報発信が求められているのだと思います。
- ・オンリーワンの高校、その高校ごとの特色をもっと前面に出した学校づくりを進めていく必要があると思います。

<職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化>

- ・滋賀県は第2次産業が中心である。これからの社会構造の変化の中で、滋賀県で生活し滋賀県を支える人間を育てる県立高校でありたいと考える。
- ・琵琶湖を県のほぼ中央に抱え、移動に時間がかかる滋賀県の地理的状況から、専門学科を備えた高校や総合学科の高校、共生社会を日常的に学ぶ高校を一定の地域のなかでつくる必要があると考える。

<ICT活用>

- ・県立高でも、ICTをフルに活用し、インターネット等で授業を行い、単位認定して行くような高等学校があれば多くのニーズがあると考えます
- ・ICTを活用した対話的・協働的な学習を通して、コミュニケーション力を高めることも、社会人としては欠かせない内容だと考えます。

<PR>

- ・中学校では、一日体験入学、ホームページやリーフレットを活用して高等学校の学習をしています。決して十分ではないと考えています。
- ・予算に違いがあるため単純に比較はできませんが、私立高校に比べるとまだまだアピール不足だと思います。

<県立高校の役割/私学との関係>

- ・私立とのすみ分けを明確にすることも大切だとは思いますが、それでは、さらに私立の魅力や特色に押されてしまうのではないかと懸念します。公立学校こそが、斬新なアイデアと工夫で、私立に負けない魅力や特色を発信いただければと願います。
- ・県内私学の進路担当者が3年生の生徒や保護者向けに説明をされていましたが、学校の特徴を大変わかりやすく説明され、興味の湧くものでした。以前ほど金銭的な面で、私学の壁が高くない状態の中で、特徴的で柔軟な学科の編成や施設・設備の充実は、県立学校にはない良さでした。人口減少が確実に進む中で、県立学校においても選択と集中は避けられないことかと感じました。

<学校でこそ育まれる人と人との関わりを通じた学びの提供>

- ・部活動については、今後「地域の部活動」という方向が出されている中、高校での部活をどのように考えるのか。あくまでも高校は、「自己実現をめざす学びの場」でなければならないと考える。

<入試制度について>

- ・これからの県立高校の在り方全般を考える上で、入学者選抜の方法について再検討することも必要だと考える。
- ・生徒数が減少傾向にある中で、県立高校の統合など存続に向けた形態を図っていくうえで、各県立高校を単独受検という形だけでなく、特色の似た複数校の合同選抜制を導入するなどを検討してはどうかと考える。
- ・高校入試の在り方も検討する必要があると思う。筆記や実技だけではなく、「一定期間の体験型入試」なども取り入れ、高校での「自分の学び」をイメージできることは有効と考える。

(5) 県立学校長/県立学校副校長・教頭

<確かな学力の育成>

(県立学校長)

- ・「目指す姿」を具現化するための「取組の方向性」にある項目を実現するためには、その多くは教育システムの変革に加えて、「教員自身の意識改革」が必要となってくるが、本県の県立高校の在り方を考える前提として、現在、学校教育の根幹となり、生徒が一番拘束される時間となる授業の学びの在り方や、これからの学びの姿などについての議論を深め、全県的なすべての教員の取組となるよう、より具体的な取組の方向性を強く打ち出すことが必要ではないか。
- ・在り方検討の内容や基本方針として打ち出す内容としてはいささかその範疇を超えるかもしれないが、部局を越えた授業改善に関する突っ込んだ議論をどこかでしてほしい。教員にとってはこれまでに「取り組んだことのないこと」を新たに実践せよというのは相当なエネルギーが必要となるだろうし、かなり強制力のある指示、命令に近い施策が必要ではなかろうか。

(県立学校副校長・教頭)

- ・「高等学校の役割」に書かれている内容は充分理解はできるが、現在の日本の入試や進学システムでは本当の意味での生きる力を育むことは非常に難しい状態である。実際の授業は受験対策や詰め込み型になっていることが多

く、日本人の良い大学へ進学・一流企業への就職が美德となっている考え方が変わらなければ、高校の教育も変わらなと思います。

- ・これまでの、知識偏重（テストで覚えたことを再生する）に重点をおいた「正解」にこだわることから脱却することが重要ではないかと考えます。

<キャリア教育の充実>

(県立学校長)

- ・地域（市町）との連携による学校の特色化、活性化に向けて、県から市町へ働きかけ、コンソーシアムの構築などに繋げることも必要である。
- (県立学校副校長・教頭)
- ・高等学校では、コミュニティ・スクール等を活用しながら、地域におけるかけがえのない素材の教材化は、必須であると考えます。
- ・自分自身の高校時代においても、これまでの普通科高校での教員経験においても、職業に関するキャリア教育がほとんどできていないと感じる。地域社会と連携して、職場見学や職業体験などの機会を設けたり、自己のキャリアプランニングについて学習できる機会を増やすべきではないか。

<多様な学習ニーズへの対応>

(県立学校長)

- ・不登校生徒の増加、通信制高校への希望者増、新しい生活様式等の状況を考えると生徒のニーズや状況に即応した柔軟な対応が今後益々、県立高校にも求められていくと思う。例えば、オンライン授業での単位認定、他校での単位修得などが考えられる。
- ・定時制昼間部は、始業時間が遅く、ゆとりのある日課で学校生活が送れるため、中学時代不登校であった生徒が自分のペースで学べる良い環境であると思っている。
- (県立学校副校長・教頭)
- ・高等学校においても不登校など心のケアが深刻化している。そのため、保健室が本来の体の不調を訴える生徒や保健業務に支障をきたしていることがある。スクールカウンセラーが常勤し、こころの問題を抱える生徒にケアが充実すれば不登校やいじめの問題の解決が一層改善できると考えられる。
- ・これからは、少人数制や選択制等で多様な学びが求められてきている時代ではないでしょうか。
- ・通級が万全ではありませんが、どこの学校にも支援を必要としている生徒がいることと思います。各エリアに通級指導を行える学校をつくり、さらには、巡回通級や他校通級なども整えながら、大規模で多くの生徒が在籍する高校にも制度が行きわたるような対策が必要ではないかと感じています。
- ・特別な配慮を必要とする生徒が各県立高校にも多く在籍する中、インクルーシブ教育の充実は大きな課題で、早急に支援体制や支援方法などのシステムがひろがらねばと感じるところです。

<生徒数減少への対応>

(県立学校長)

- ・再編の基準規模を下回るからといったことでの再編ありきではなく、地域性も重視する必要があると考える。学校を残すために、現在の40人学級から県独自で30人学級等に減数させる方法とはれないものかと考える。
- ・再編を行う場合、農業、工業、商業をひとつの学校にして産業高校として再編するやり方は、本県にはなじまないと思います。そこで、地域的には偏りができますが、農業、工業、商業でそれぞれ存続させる学校を1校から2校にしぼり、そこに人材と予算を集中し特色ある学校づくりを進める必要があると思います。
- ・学校規模が小さくなると、学校の活気や学園祭等の行事・部活動に大きな影響があるため、最低でも4クラス規模が必要ではないか。
- ・生徒数が減少していく地域では、将来を見据えた適正な規模および校数にしていくべきではないか。
- ・特色ある教育を行うには、教える教員、必要な施設が整っていることと、ある程度の生徒数が必要。複数の学校が協力して、特色ある取組を行うことを検討してはどうか。部活動についても上記と同様、複数の学校が協力して実施することを検討してはどうか。複数の学校が協力する際、本校、分校という名称ではなく、〇〇高校△△キャンパスというような形ができないか。
- ・統廃合を考える前に学級定員を30名にするなど、定員を弾力化することが結果として魅力化につながるように感じます。今後魅力化の名のもとに学科を新設されることがあるようでしたら、地域の状況などを考慮しつつ定員を弾力的に運用できるようにしていくのがよいと考えます。
- ・人口減少地域における小規模校の解消のための再編・統合を実施し、一定の規模で教員数も充実した状況を作ることが必要と考える。
- (県立学校副校長・教頭)
- ・人口減少、少子高齢化に伴って高校生的人数が減少する中、再編成によって統廃合され、高等学校数が減少することはやむを得ないことであると考えられる。しかし、一方で生徒の通学の安全や学習・部活動の時間の確保の観点から通学に便利であること、それぞれの地域社会で生徒を育成して地域を支える人材を輩出していくことが重要である。したがって各地域における高校が小クラスであっても存続させることにも大きな意義がある。特に人口減少地域の小規模校には、学校の特色を發揮しやすい学科の編成等を推進して魅力ある学校づくりを行い、地域の活性化の貢献につながることを期待する。

- ・中学校卒業生数が減少する中、クラス減がなされているが、1学級の定員数を35人以下にするなどして、生徒一人ひとりに対応しやすくするようにした方がよい。特に、学習意欲に乏しい生徒が多い学校は、30人学級にするなどして、教員が生徒に対して手厚く対応できるようにした方がよい。
- ・普通科高校では、一定数の学級数がないと、生徒の協同・競争による効果や部活動の成立が困難と考えられる。
- ・県立高校として、少子化の影響を受け、小規模となる高校が増えてくるが、地域市町と密接な協力を得ながら各高校の魅力化と特色化を進め、地域の為に存続させていくことが必要であると思います。
- ・1学年小さくて4～大きくて8クラス。今回コロナ不安のため公共交通機関の利用を控えた生徒がいたことを考えると、自転車通学できる学校がやはり必要。志願者数の減少等により統廃合のためJR沿線から離れた学校がなくなっていくことは避けてほしい。
- ・生徒減よってのクラス減や学校再編等を安易に行うのではなく、先行して一部地域だけでも30人学級にする等の、柔軟な発想や取り扱いをしても良いのではないかと考えている。

<普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)>

(県立学校長)

- ・グローバル人材は育っているのか甚だ疑問です。語学力、コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性と柔軟性、責任感と使命感、異文化理解などを備えたグローバル人材の育成は急務だと思っています。
- ・進学または就職に特化してはという意見もあるようだが、それは難しいと思う。高校に進学し新しい環境となることが人生を考える上でのきっかけとなればと思う。どこに在籍していても、その学校が提供する学びで、努力と成果次第で夢が実現できる学校作りが必要であると考えます。
- ・地域ごとに、「学力向上・進学重視校」、「楽しい(?)学校」、「規律重視(?)校」、「インクルーシブ推進校」等、学校の方向性を前面に打ち出して、高校の住み分けを図るというのも一案でないでしょうか。(学校間格差拡大になりますか…)

(県立学校副校長・教頭)

- ・現在、高校普通科を類型化する案も文科省のWGで検討されているようですが、大学等での本格的な研究を考えれば、高校は学問する態度や基礎・基本を身に付ける段階であると思います。このような教育の普遍的な性質を考えると、普通科を類型化するには、よほど慎重にやる必要があると思います。
- ・一つの高校内で様々な対応をしなけれまいかないう現状を考えると、学び直しに特化した学校、上級学校の進学を目指す学校、職業人としてのプロ養成をする学校を再編しつつ、県内の各地域に核となる学校を決め、生徒の能力を高める学びを提供する場をつくる。もちろん、職業専門高校や学び直し中心の高校からでも、十分に進学に対応できるような体制づくりも必要。
- ・徹底したフィールドワーク重視のカリキュラムを持つ学校や、例えば「山(木、生活、木工、動植物、林業等)」に関して三年間探究するコースを持つ学校など、あげればきりがありませんが、それぞれの高校に何か「わくわくする学び」を作ることができれば、高校は魅力的なものになると考えます。
- ・音楽科は、志望者さえあれば、存続させるのにふさわしい価値をもっている。志望者がいない場合に、次の段階として、募集定員を減らし、非常勤講師の措置や施設設備をそれに見合うものに縮小する。美術科との統合については、授業の実施や指導者の配置を考えると厳しいと感じている。

<職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化>

(県立学校長)

- ・グローバル化時代に対応できる人材育成が求められる。特に専門高校の役割が大きい。専門高校には、それなりの教育予算や施設・設備が必要となるが、地域資源をうまく活用したり、業界との連携した学びも必要。
- ・農業、工業、商業の専門高校では、湖北、湖東、湖南それぞれの地域に歴史や伝統、特色の異なる学校がありますので、今の体制を維持しつつ更なる特色づくりができればよいかと思いますが、本県の規模で、農業3校、工業3校、商業3校を維持していくのは将来的には困難かと思えます。しかし、再編を行う場合、農業、工業、商業をひとつの学校にして産業高校として再編するやり方は、本県にはなじまないと思います。そこで、地域的には偏りができますが、農業、工業、商業でそれぞれ存続させる学校を1校から2校にしぼり、そこに人材と予算を集中し特色ある学校づくりを進める必要がある。(後段部分再掲)
- ・高校の施設・設備の老朽化の改善をお願いします。専門学科の独自性を発揮するには、学校の施設・設備を充実させ学習環境の整備をお願いします。

(県立学校副校長・教頭)

- ・専門高校は、数を減らして、施設・設備や教育内容の質を高めるのがよいと思います。専門高校を志向する生徒は一定数いるので、最先端の技術などに触れて学ぶことができる魅力ある学校、行きたい学校ができればと思います。

<定時制・通信制の役割への対応>

(県立学校長)

- ・転編入できる通信制高校を県下1校ではなく、県北部エリアにも設置。
- ・不登校生徒の増加、通信制高校への希望者増、新しい生活様式等の状況を考えると生徒のニーズや状況に即応した柔軟な対応が今後益々、県立高校にも求められていくと思う。例えば、オンライン授業での単位認定、他校での単位修得などが考えられる。(再掲)

(県立学校副校長・教頭)

- ・多くの教員や県民は定時制高校の必要性（存在）について疑問を持っている人が多いと聞く。しかし、多くの不登校を経験した生徒や高校を中退学した経験のある生徒が、学び直しを考えた時など必ず必要となる学校であるので、存続してほしい。

<PR>

(県立学校長)

- ・各校がいかに関心ある学校づくりを進め、中学生や保護者にうまくPRしていくことが重要である。
- ・中学校までにいろいろな高校を知る術は、中学3年生の体験入学しかない状態になっている。中高の連携を一層深め、もっと合同練習や出前授業・質問教室などのイベントを催しても良いと考える。体験入学がなければ、家族の出身校と特別な進学校ぐらいしか中学生は知らないのではないかと。高校の発信強化の努力だけではまかないきれない壁がある。

<推進体制/教員のフォロー>

(県立学校長)

- ・魅力ある学校づくりに取り組むのであれば、教員に余裕がなければならない。定数法とも関連するが、定数法以外でも教育に潤沢に財源を投入し、正規職員や臨時講師等を増やしたり、施設・設備を改善したりするなどの取り組みをする中で各校の目指すべき魅力に対し力を注ぐべきである。
 - ・教員の資質向上などの観点から、教員研修の充実についての考察や検討も是非期待したい。
 - ・優秀教員確保や入試制度については、何故触れられていないのか。
- (県立学校副校長・教頭)
- ・先生方の働き方改革とのバランスも検討する必要なのではないでしょうか。
 - ・これまでの上から教え込むような立ち位置からの指導を見直し、子どもたちの学びを支援する立ち位置となるような、教員に対しての研修を行うなど、教員の意識改革に努めたい。

<県立高校の役割/私学との関係>

(県立学校長)

- ・本県では以前に比べ私立高校が増え、それぞれが強い特色を出している。それに対して県立高校も各々独自の特色を打ち出してはいるものの、限られた県の財源の中で全体のバランスや公平性もあり、私立高校ほど際立った特色が出にくい面がある。京都や大阪の高校への進学も選択肢に入れることが比較的容易な県南部と、その他の地域では県立高校に対する捉え方に違いがあると思うが、どの地域の学校であっても、今まで以上に地域と結びついた学校経営が求められている。

<学校でこそ育まれる人と人との関わりを通じた学びの提供>

(県立学校長)

- ・生徒数減に伴ってクラス数を極限まで減らしていくと、学校行事や部活動等が縮小していき、結果として学校の活力が失われる。このことを防いでいくための仕組みづくり（例えば近隣校で合同による行事や部活動の実施など）を議論し、実行していく必要がある。
- (県立学校副校長・教頭)
- ・高等学校が社会に出る最後の集団になると考えると「協働する力」をもっと大切にしたい。勉強は個人でもできるので集団でしかできないことを取り入れる「協働する時間」というものがカリキュラムあっても良いと思います。
 - ・生きる力を育む場に入っていると思いますが、【高等学校の役割】欄に、「協働する力をつける」（協働を経験する場）という内容が示されていると良いと思います。
 - ・生きる力を育むためにも高等学校の役割としては、友人同士が互いに励まし合い競争し合って、共に向上する「切磋琢磨」できる環境を提供することも必要だと考える。
 - ・生徒の要望があれば、所属高校以外の高校の部活動に参加し、大会に出場(所属校名)できる仕組みをつくる。特に所属校の引率問題の緩和が必要。

<入試制度について>

(県立学校長)

- ・生徒数が減少する中で、定員確保に向け、各校精一杯の特色化の努力を続けている。地域社会の活力衰退の原因を学校教育に求めることや、これ以上の特色化を求めることは限界である。特色・推薦選抜をブロック別に戻し、一般選抜を全県一区とするなどの入試制度改革はできないか。
- (県立学校副校長・教頭)
- ・入学者選抜があるため、その制度も併せて検討する必要があるのではないのでしょうか。

(6) 高校教諭

<確かな学力の育成>

- ・生徒が自分を表現するような活動をもっと授業に取り入れたり、社会と関わることができるような活動を取り入れることで、生徒が主体的に学びを深めたり、自己を表現したり、多様な価値観を受け止めたり、自分が社会の中でどう行動すべきかを判断したりすることができるよう努めたい。

<キャリア教育の充実>

- ・地域との連携も積極的に行い、座学だけでなく、社会とのつながりも持つ必要があると思った。そのためには、我々がもっと視野を広く持つことが大切であると思った。
- ・高校を卒業してからの人生にしっかり役立つような経験と知識を生徒たちが得られる場になるように努めていきたい。

<多様な学習ニーズへの対応>

- ・グローバル化や特別な教育的支援が必要な生徒の増加、いじめ問題等の課題がある中で、自分とは違う子を排除するのではなく、多様性を認められ、受け入れられるような取組が必要だと思う。
- ・特別な教育的支援や部活動において専門家をつけることが必要なのではないか。
- ・多様な生徒を受け入れるには、スクールカウンセラーや特別な教育的支援に対応できる専門の教員、全日制だけじゃない多様な学びができる通信、単位制の学校が増えるといいのでは。

<学校の特色化>

- ・オンリーワンの特色を出すことは、かなりパワーのかかることであると思います。それを実現させるためには、現場の状況、声をより吸い上げてもらい、教員全体が各校の特色を生み出せるような思考時間をもてるように、余裕を持てるように変わること、変えることへの支援が必要だと思いました。
- ・かつての管理職の先生に言われた言葉が今も強く印象に残っている。「停滞は衰退である。」時代の流れに取り残されないよう、恐れずにスクラップ&ビルドに取り組んでいきたいと思う。
- ・他府県と比較しても県立高校の特色化や魅力化が進んでいないのが現状で、マイナーチェンジではなく、抜本的な目に見える変化が県民に伝わらないといけないと感じます。
- ・日々変化する世界において、学校もより良い変化をすべきですが、実際には変わらない、というより、変えようとしない教員が多いことも残念な事実です。社会の変化に合わせて、それにあった教育を提供することが今後の我々の使命だと思います。
- ・それぞれの学校にはそれぞれの課題があり、再編などのハード的改革以外に、内側からしっかり学校の軸を支えていくことが大切だと思いました。
- ・集団だからこそできる学びや体験を各学校の特色として打ち出していく必要があると強く感じた。

<ICT活用>

- ・どういう場でICTを活用すれば、どういった効果があるのか（個別最適化や反転学習など）全体で教員も学んでいくべきではないでしょうか。

<その他>

- ・外部指導や地域の方との連携で負担が増え、本来やるべき教科指導や部活指導に力を注ぐことが十分できないことが課題と考える。
- ・ある程度「過ごしやすく快適な」環境を用意してやらなくては、学習の効果以前に学習にのぞむ姿勢すら取れないのではないかな。
- ・教員数を増やし、1クラスあたりの生徒数を減らし、生徒により深く関わる機会を増やすことができればよい。